

子育てを心から楽しめる社会を！

目黒区議会議員

たぞえ麻友

活動レポート

たぞえとめぐる
vol.1

2015.No v

ぜひ、お越しください!!

「活動報告会」を開催します！

テーマ

区議会の仕組み、保育園の整備状況、
四中跡地活用、JR 跡地活用など

子連れ
OK!

第1回 12月5日(土)

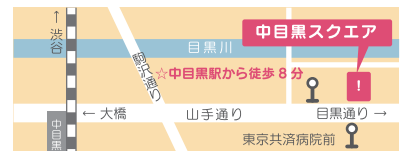
時間 11:00～(1時間半程度)

場所 油面住区センター 1階和室
(目黒区中町1丁目6-23)

第2回 12月9日(水)

時間 19:00～(1時間半程度)

場所 中目黒スクエア9階 研修室
(目黒区中目黒2丁目10-13)



～ 事前に参加人数をお知らせください ～

● E-mail mayutazoe@gmail.com ● TEL 080-8885-6965 f t

ごあいさつ

みなさまのお力添えのもと、新米区議会議員として、半年が経ちました。

以前の会社勤めとはまったく異なる環境の中、区政について、また区民のみなさまの関心事について理解を深めてまいりました。まだまだ経験不足ではありますが、初心を忘れず、区民のみなさまの期待に応えられるよう切磋琢磨してまいります。引き続き、応援やご意見を賜りたくお願いいたします。

今回、初めて活動報告会を開催します。半年間の活動や区政の流れについてご報告できればと思います。今後もより多くの方に区政について関心を持っていただけるよう、試みていきたいと考えています。お時間の許す限りぜひ、ご参加ください。

議会にて一般質問の様子▶



4月～9月の活動

- 4月 1,979 票を頂戴し、初当選しました
- 5月 会派結成『未来倶楽部・生活者ネットワーク』
所属委員会の決定
 - ・文教・子ども委員会
 - ・目黒総合戦略等調査特別委員会
- 6月 議会(平成27年第2回定例会)
- 7月 委員会視察
- 9月 議会(平成27年第3回定例会)にて一般質問
決算特別委員会

今後の議会予定

- 11月20日(金)～12月4日(金)
議会(平成27年第4回定例会)
- 2月19日(金)～3月23日(水)
議会(平成28年第1回定例会)、予算特別委員会

たぞえ麻友プロフィール

1982年東京都目黒区生まれ32歳

目黒サレジオ幼稚園、目黒星美学園小・中学校・高等学校卒業
受験にあたり、予備校の早稲田塾(自由が丘校)にも通学

早稲田大学政治経済学部卒業。在学中、南アフリカで開催された持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)に Youth 枠で参加
専門商社に2年勤務後、ベンチャー系経営コンサルティング会社に転職。

夫、子ども3人(7歳、4歳、2歳)の5人家族。両親と同居。



www.mayutazoe.com

f たぞえ麻友 t たぞえ麻友と目黒区の未来を創る会

ホームページ等でも区政について、目黒について情報発信しています

目黒区の現状とたぞえ麻友の思い

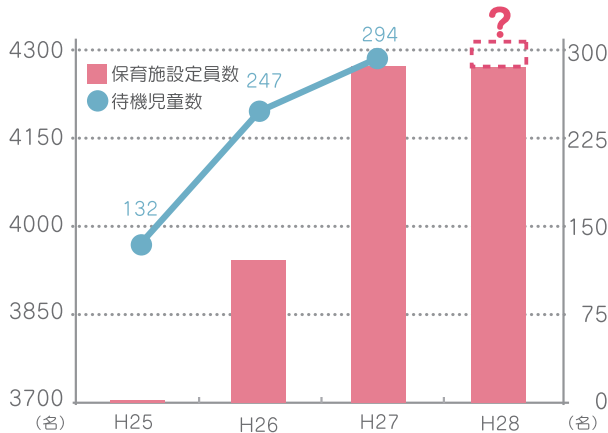
「子育て」

母の視点から

過去最多の待機児童数、 294名！

※平成27年4月時点

(認可保育園に申請して入れなかった
児童を含めると1000名を超えます。)



(現状) 今年4月に発表された目黒区の待機児童数は、過去最多の294名となりました。区は保育園整備を進めているとは言いますが、①保育園開設予定地の近隣住民による反対 ②保育事業者の誘致が不調などを背景に、計画通りに開設することができていません。平成28年4月に向けて、認可保育園3施設、合計180名の定員増(内1園は認証保育園から認可への移行のため、純粋増は2園、130名)が確実視されていますが、残念ながら待機児童の増加に歯止めをかけられていません。

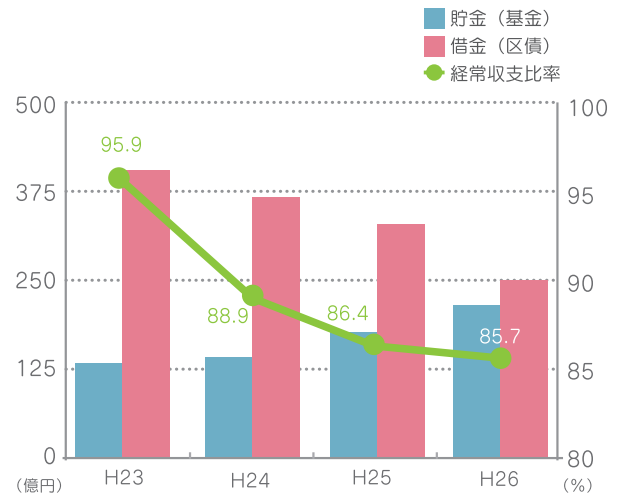
(思い) ①子育てには、地域の方々の力が必要だと思っています。保育園整備をするうえでも、保育園が新たな地域の仲間と思っていただけるよう、区と運営事業者と近隣住民の方との対話が重要です。また、近隣住民の方が住環境の変化に不安を抱くことのないよう、真摯な対応を区に求めています。②目黒区は今後の保育事業を民間事業者(社会福祉法人、株式会社)に担ってもらうことを前提としています。しかし、区の募集に対して積極的な応募があるとは言い難い状況です。信頼できる民間事業者を誘致するために、区独自の加算制度を設けると同時に、安全が担保される基準設定を要望していきます。

そして、子育て政策は保育園整備だけではありません。より多くの方が子育てを心から楽しめる環境の整備を推進していきます！

「財政健全化」

民間企業出身者として

改善しつつも、 未だ硬直的な財政



(現状) 決算特別委員会(9月)にて、平成26年度の予算執行状況が精査されました。目黒区の平成26年度の経常収支比率(一般財源に占める固定費(人件費等)の割合で、比率が低いほど政策に使えるお金が多くあることを示します。)は85.7%となり、前年度より0.7%改善しました。この経常収支比率は、70%~80%が適正水準とされており、80%を超えていると区独自の施策等を打ち出しにくい財政状況だと言われています。目黒区は平成21年度に95.3%、平成22年度に97.5%、平成23年度に95.9%という危機的な財政状況を鑑み、平成24年~26年の3か年に亘り「財政健全化に向けたアクションプログラム」と銘打った財政引締めを行いました。

(思い) 今年度の決算特別委員会は3か年に及んだ財政再建の成果を精査する重要な議論の場でした。経常収支比率は改善したものの、適正水準には届きませんでした。また、3か年のアクションプログラムにより、区の行政サービスの質の低下を招いたとの批判もあります。再び目黒区の財政が悪化しないよう、肥大化した行政組織のスリム化が必要だと考えます。また、行政サービスの質を低下させることなく、財政状況の更なる健全化に向けた行政改革を果たすべく、引き続き財政分析、無駄のない行政運営を要望していきます。

